

モダン・ムーブメント建築の 動的保存・更新に関する総合的戦略

～計画・構造・生産の各技術の変遷とその応用～

竹宮健司（建築計画）
角田 誠（建築生産）
北山和宏（建築構造）
小林克弘（建築意匠）

モダン・ムーブメント建築とは

「モダン・ムーブメント」は18～19世紀の合理主義的・社会改革的な思想や技術革新を基礎に、1920年代に西ヨーロッパで明確な形をとり、その後世界に広まった建築（環境形成法）と言われています。

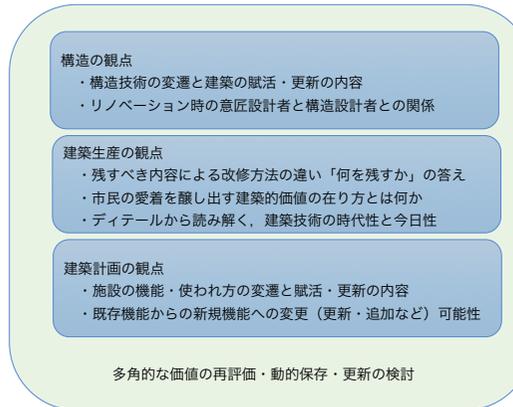
このようなモダン・ムーブメントの考えに基づいて設計された建築（モダン・ムーブメント建築）は、20世紀の建築や環境形成の主要な部分を担っていたにもかかわらず、1980年代以降のポスト・モダンの潮流により、懐疑的にとらえられたり、その価値が評価されずに取り壊されてしまう状況が続いています。



プロジェクト研究コースの概要

今日の我々の生活の中で利用する建築のいずれもが、原点にモダン・ムーブメント建築があり、これらの価値を改めて問い直すことが、これからの建築あるべき姿や今後の展開を探るヒントになるのではないかと考えます。

そこで、本プロジェクト研究コースでは、モダン・ムーブメント建築の価値を、建築意匠・建築計画・建築生産・建築構造の観点から多角的に問い直すと共に、それらの価値を継承し活用する<動的保存・更新>の方法を検討することを目標とします。



耐震補強が困難と考えられる近代RC建物... 耐震改修手法を模索し、その建物の 動的保存および活用の方策を探る



東光園・菊竹清訓 設計
(1964年竣工)

世界平和記念聖堂・村野藤吾 設計
(1954年竣工)

建築生産・建築構法の観点

建築を保存・更新する際に、文化的価値、意匠的価値だけでなく、その建物を成り立たせている、
『技術的価値』
に着目する

活用にあたっての新たな『技術』は、建設当初のものでもないし、現時点での最先端のものでもない

- 保存・更新すべき内容と、具体的な『技術』との関係
- 『技術』を継続・持続させることの意義
- 建築の『技術』における、時代性と今日性

Spiral 弘前市民会館 佐賀県立博物館 東光園

建築計画の観点

- ・施設の機能・使われ方の変遷と賦活・更新の内容
- ・既存機能からの新規機能への変更（更新・追加など）可能性



100年続く倉敷中央病院

取り壊しがきまった熊本通信病院

プロジェクト研究コース<No.16>
詳細説明会

2018年6月5日（火）16：30

9号館7階会議室